

令和3年度白石町立有明中学校卒業証書授与式 式辞

三月に入り、少しずつ春らしい陽気となり、校門の桜もつぼみがふくらんできました。

このような中、白石町教育委員会、本校学校運営協議会の皆様にご臨席いただき、多くの保護者の皆様の温かい見守りと在校生の参列のもと、白石町立有明中学校第六十回卒業証書授与式が挙行できますこと、心より感謝申し上げます。

本来であれば、多くのご来賓や地域の皆様にも出席いただき、卒業生の旅立ちをお祝いするところですが、コロナ禍の中で、規模を縮小しての式といたしました。

しかし、出席できなかった方もきっと皆さんの卒業を心からお祝いされていることと思います。

さて、有明中学校を巣立っていく 六十四名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今、皆さん一人ひとりの心の中には三年間の中学校生活の思い出が色鮮やかに駆け巡っていることと思います。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。中学校の卒業と同時に九年間の義務教育の卒業という大きな節目にあたり、これまでのお子様の成長を振り返り、感激もひとしおのことと思います。

昨年度からのコロナ禍の中で、学校生活は大きく変化しました。これまで当たり前のように行ってきた学校行事や授業、部活動などで、さまざまな制限がなされました。

話し合うこと、歌うこと、給食時間に話をしながら食事をする事など、これまで当たり前だと思っていたことが、どれだけ私たちの生活の中で大切だったのかを改めて実感しました。

しかし、コロナ禍だから、しない・できないではなく、「どうすればできるか」ということを考え、取り組んできた一年間でもありました。

その中で工夫すること、周りの人を思いやることなどたくさんのかを学ぶことができました。

四月、新入生を迎え、令和三年度の学校生活がスタートしました。皆さんは最上級生として学校をまとめ、引っ張っていくという気概をもって日々の学校生活に取り組んでいました。

五月の体育大会。「雲外蒼天（うんがいそうてん）」のスローガンのもと、赤・青、両団とも団長を中心に、大いに躍動しました。

全員による舞や工夫された振り付けなど、見るものを魅了した応援合戦。

そして、皆さんの熱い思いで実現した全校ソーラン。練習から本番まで生徒が主体となってすばらしい演技を披露し、有中の体育大会に新しい歴史を刻んでくれました。

七月の中体連。皆さんにとって、三年間の集大成となる最後の大会で

した。決して多くない部員数、コロナ禍で十分な練習時間もとれなかった中、必死にチームをまとめ、最後まであきらめずに戦いぬいた姿に、大いに感動しました。

五つの競技での県大会出場、うち2つが県大会3位、個人での県大会優勝、九州大会出場と素晴らしい成績を残しました。皆さんの思いを、今、後輩たちが受け継ぎ、七月の中体連に向けて頑張っています。

十月の文化発表会。「歴史に刻め、個性の光と笑顔の花～最高の仲間と共に」のスローガンのもと、すばらしい劇や合唱などが発表されました。

今年から始まったパフォーマンス・タイムでは工夫を凝らしたダンスを発表し、「主体性」という新たな一面を見せてくれました。

迫真の演技で、観る人を引き込んだ学年劇「グッバイ、マイ」。

力強い歌声と美しいハーモニーで私たちを感動させた合唱コンクール。1組、2組どちらもすばらしく、最上級生としての強い思いやプライドを感じました。

そして学年合唱「青葉の歌」。これまで3年間の友と過ごした思い出、未来に向かう新たな決意、そういう思いが伝わるすばらしい合唱でした。この皆さんの頑張りが有中の三年生の姿としてこれからも受け継がれることと思います。

十一月の修学旅行。コロナ禍で期日や内容の変更を余儀なくされ、ぎりぎりまで悩みましたが、みなさんの思い、保護者の方のご支援で、一泊二日の修学旅行が実現できました。

一人ひとりが自分たちで考えて行動している姿を見て、最上級生としての思いや行動力のすばらしさを感じました。皆さんにとっても中学校最後の大きな行事として、心に残ったことと思います。

このように皆さんは、たくさんの思い出をつくるとともに、後輩にたくさんのメッセージを残してくれました。それを下級生が受け継ぎ、有明中学校のゴールに向かってさらにすばらしい伝統をつくってくれと信じています。

本当にありがとうございました。

本日、皆さんは本校を卒業します、四月からはそれぞれが新しい場所で、新たなスタートを切ることになります。今まで慣れ親しんだ場所を離れ、新しい道を歩むということには、不安を感じるかもしれません。

しかし、何も心配はいりません。失敗することがあってもそれは自分の財産となります。自分を信じて、失敗をおそれず、たくさんのことに挑戦してください。

皆さんの後ろには保護者、友人、そして母校である有明中学校があって、いつでも見守っています。

巣立ちゆく皆さんに、この言葉を贈ります。それは「志」です。

今年一年間いろいろな機会に「志」をもつことの大切さを話してきま

した。常に自分の夢や目標をもち、その実現のため、全力でチャレンジしてください。

志すことは何でもいいのです。

また、何回変わっても構いません。

志を持ち続けることで皆さんの人生は豊かで、前向きに進むことができると思います。

そして、有中生のスローガンである「笑顔さわやか、ひとみ輝く」を実現させてください。

「笑顔」にはコミュニケーションをスムーズにすると共に、ポジティブな気持ちになる、まわりに伝わり集団の雰囲気をよくする、幸福度を高めるなどの効果があると言われています。

そしてひとみが輝いているときは、自分のやりたいことがあり、それに向かって挑戦していると思います。

いつまでも「さわやかな笑顔」と、「輝くひとみ」をもった皆さんでいてください。

今現在、ロシアによるウクライナ侵攻という信じられない事態が起っています。

先日のニュースで首都キエフの地下シェルターで、避難している人々を勇気づけるために歌を歌っている女の子の映像が流れていました。

彼女は将来、プロの歌手になって大きな舞台に立つという夢を持っているそうです。

この戦争で、たくさんの命が失われ、たくさんの人の夢や目標が奪われようとしています。

どうか知ってください。

私たちが生きている今や未来を、生きたくても生きるこのできない多くの人がいることを。

どうか感じてください。

未来の夢や希望を持ちながら、それを叶えるこのできなかった人たちの思いを。

皆さん、どうかお願いします。

今、そしてこれから生きる未来を大切にしてください。

忘れないでください。

私たちは、夢や目標を持ち、「自分が達成したい」と思いさえすれば、それに向かって何度でも挑戦することができるということを。

結果を恐れず、「チャンス、チャレンジ、チェンジ」そして人とのコミュニケーションを大切に、これからの人生、一步一步歩いてください。

最後に、保護者の皆様一言御礼申し上げます。

これまで、本校教育の充実と発展のために物心両面からの御支援を賜

り、本当にありがとうございました。
今後も学校の応援をよろしくお願いします。

卒業生一人ひとりが歩む未来が、光輝くものになるよう、ここにいる
全員が応援をしています。

以上、式辞といたします。

令和四年三月十一日
白石町立有明中学校
校長 川崎 朗